



# Go! 剛! NEWS!!

政務調査報告書

第34号

## 住宅都市の特徴を伸ばして持続可能な都市に

国は全国の住宅団地の人口減少・高齢化等の課題に対し、再生支援をするため、令和4年に住宅団地再生の手引きを作成しました。多世代が安心して暮らし続けられる住宅団地を目指し、課題解決の方向性を①福祉・健康、②子育て、③生活サービス、④交通・移動、⑤働く、⑥住まい、⑦住環境、⑧防犯・防災、⑨コミュニティの九つのテーマとしています。

宗像市は、平成27年宗像市都市再生基本方針の策定で既にテーマを抽出、日の里地区まちづくり委員会の懇談会を皮切りに、全国に先駆けたリーディングケースとなっています。下図は手引きに沿って実践を整理しました。

3. 住宅団地再生のすすめ方	
1) おすすめのフロー	
準備段階	住宅団地の現状の把握(ヒアリング、基礎調査等により現状・課題等を把握) 住宅団地再生を考える検討体制の組成
検討段階	住宅団地再生に向けた取組の検討 ・住宅団地の課題と資源の共有 ・将来の暮らし像(再生のビジョン)の設定 ・暮らし像実現に向けた取組の検討 ・取組の実施体制の組成
開始段階	住宅団地再生の取組の開始 ・検討した取組内容をもとに、取組を開始
継続段階	持続的な取組の実現に向けて ・取組が持続的に行われるよう、体制や事業計画等の改善を図る

- 宗像の団地再生の実践**
- H26：日の里地区まちづくり委員会設立
  - H27：宗像市都市再生基本方針の策定・まちづくり懇談会
  - H28：cocokaraひのさとオープン
  - H30：ワークショップ等住民とのミーティング
  - R 1：ひのさと48プロジェクト始動
  - R 2：オンデマンドバスの実証運行
  - R 3：さとのはhinosatoまちびらき・ひのさと48オープン
  - R 4：日の里地区再生ビジョン策定

日の里団地の再生は、地域住民のコミュニティをベースに丁寧に準備段階を行い、ひのさと48を中心とした民間事業者との連携が「宗像・日の里モデル」として、団地再生の推進力となり開始段階に入りました。今後は企業と地域の協働、東街区から日の里全体への動きが必要となり、日の里地区都市再生ビジョンにおいて全体像が示されます。

UR日の里一丁目団地は103・104号棟の解体工事が来年2月から始まり、終了後に跡地の公募が行われます。団地跡地だけでなく、店舗など周辺を含め、区画を広げた一体的な事業が出来るようにURとの協議が必要です。そして、この開発にあわせて、再生したまちの玄関口となる東郷駅日の里口周辺のにぎわいをいかに作りつなげていくか、歩いて暮らせるまちづくりのために東郷駅と103・104号棟をつなぐ日の里大通りがどうあるべきか、3号線との交通結節点である新王丸橋橋台周辺まで含めて、駅前のコンセプトを再度検討すべきと考えます。

ご意見、ご感想などメッセージ頂ければ励みになります！

日々の活動はfacebookにて  
[fb.me/goyo4da](https://fb.me/goyo4da)

吉田さのうのホームページ  
[non3.jp/yoshidago](https://non3.jp/yoshidago)

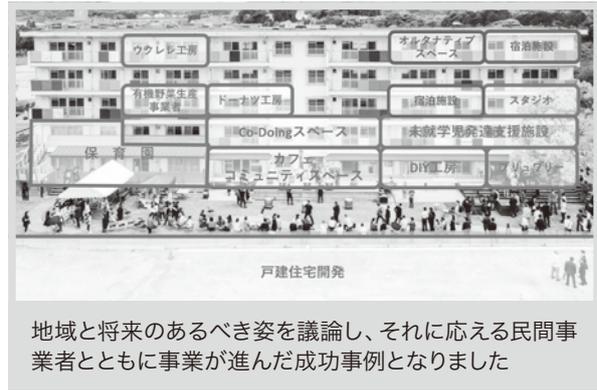
一般質問の会議映像は  
宗像市役所HPにて

## ■ 団地再生の象徴・ひのさと48で行われるさとづくり48プロジェクト

令和2年度に団地再生元年と称して取り組んだ東部生活拠点の事業は、生活利便施設ひのさと48を拠点に、地域の会話や交流を生むというコンセプトの下、様々な取組が企業により行われており、国土交通省のまちづくりアワードの受賞するなど注目を集めています。

さとづくり48のプロジェクトは「苦楽をともにする。通常なら交じり合わない人や企業がそれぞれの強みを結集し、一丸となってまちづくりを実践する」をコンセプトに、地域の課題解決・経済活性化のため、コミュニティスペースを展開し、クライミングウォールやビールを作り、宗像の魅力を生かすため観光に取り組む、など企業としては経済的合理性が伴わない活動を行っています。

この取組が地域のにぎわいに、住宅団地再生につながります。この動きを加速するためには、企業・行政・地域が同じ熱量で気持ちをあわせて活動すること、企業の貢献が利益につながる仕組みを行政がつくること、が必要だと考えます。



## ■ 実証実験から本格運航へ。オンデマンドバスののーと

令和3年にオンデマンドバスが運行開始し、月の送乗客数が4000人を越え、地域全体に移動を創出、平均待ち時間が10分程度で利便性が向上、説明会の開催によりアプリ利用の予約割合が83.1%と幅広い年代の方に利用が広がっています。

コスト面ではコミュニティ・バス約770円/1人に対してののーとは約760円、利用者数増によりコスト削減の可能性もあります。また、効率的に運行できる範囲としては5キロ四方・人口1万人程度で日の里から市役所、光岡付近までと分析されています。

課題はありますが、ののーとが広がる可能性にJR・西鉄バスの路線、コミュニティ・ふれあいバス、タクシー、それにシティサイクルなどの新しいシェアサービスも含めて公共交通体系の全体像を再検討すべきです。例えば、オンデマンドバスの範囲にハブをつくり、各地からシャトルバスを運行し鉄道・バスの路線につなげるなど、いまある乗客を取り合うのではなく、交通手段が多様になることで需要を増やし分け合う仕組みをつくるべきと考えます。



## 吉田こう 議員活動ダイジェスト

### 宗像市議会議員 吉田こう

昭和48年 3月、宗像市田熊生まれ  
東郷小学校～中央中学校卒業  
平成3年 宗像高校卒業  
平成8年 福岡大学経済学部卒業  
平成8年 株式会社トランスオービット(旅行業)  
入社、平成24年6月退社  
平成24年 10月、宗像市議に初当選  
令和2年 宗像市議に三選を果たす  
現在 宗像市久原に在住

10月 初当選から10年。39歳で立ち、10年間でまだまだ感わずに至りませんが、これから天命を知ることが出来るよう為政の道を歩みたいと思います。福祉施設団体の皆さまからの声を会派で勉強し、緊急要望書を提出しました。

11月 臨時議会が行われ、副議長に就任。不易流行という言葉のとおり議会の最適化に尽力します。むなかたキッズセブンラグビー大会で900人の小学校3・4年生が参加、たくさんの歓声が響きアフターコロナの時代の訪れを感じました

12月 定例会では緊急要望書の介護・障害者施設への支援が議案に反映しました。今後も市民の声を政策実現につなげていきます。

